

ボランティア volunteer

ボランティアセンターだより

2009.11

大崎市ボランティアセンター

サマーチャレンジ ボランティア2009レポート

七月二十七日(月)から三日間にわたって、福祉への関心や理解を深めることを目的として、夏休み福祉体験学習「サマーチャレンジボランティア2009」を開催いたしました。

大崎市全域の小・中学生、宮城誠真短期大学生三十名の皆さんが、三日間にわたり、市内の様々な施設について、キャップハンディ体験を通して、新たな視点で感じていただきました。



★第一日目

初日は、ジャスコ古川店様にて車イス等を使った買い物体験。

普段、何気なく買い物で入店している風景と、車イス上から見たジャスコ店内はいつになく広く、「落ち着けなかった」との印象を持った子どもたちもおりましたが、それ以上にバリアフリーの意義を強く感じ取っていた様子でした。

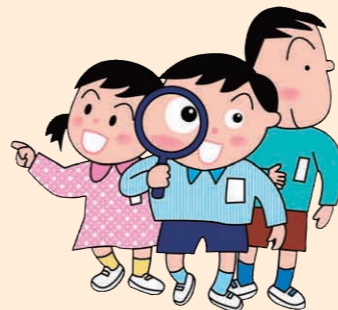


★第二日目

二日目は、大崎市内4箇所の公共施設等に分かれて体験を行い、各班のメンバーが体験を通じて「気づいた点」を挙げてもらいました。

(1班) JR古川駅・電車内

- エスカレーター／車イスでも昇降できる機能があり、スイッチが低い場所にあった。
- 電車乗降口／駅長さんにスロープを設置していただき、電車に乗り降りできた。
- 電車内優先席／優先席の表示があり、通路が広く車イスを置くスペースがあった。つり革が低くなっていた。



★第三日目

三日目には、各班に前日の体験を基にした「福祉体験マップ」作成に取り組みました。

各施設内をアイマスクで目隠ししながらの白杖体験や車イス体験によって、どのような点が配慮されているのかを検証した結果を思い思いにマップづくりを行い、写真を上手に使用して、施設紹介するグループ、折り紙や絵を書き込んで強調するグループ。個性豊かな福祉体験マップが完成されました。



完成後の発表会では、各グループ共に見事なマップを披露いただきながら、各施設の配慮されている点や、もう少し工夫してほしい点など、子どもらしい素直な意見が発表されました。



今回の事業を通して、小学生、中学生、短大生がグループ内でのそれぞれの役割を自然に構築し、発見に対する驚きは、学年を超えた素直な一面を覗かせることも多く、一連の共同作業を通して新たな友情の形を目にすることが出来ました。

同じ大崎市の子どもたちが、同じ視点で「優しい街づくり」を学ぶことは、これからの大崎市の豊かな地域づくりに関わる者の、その種をこの地に放ち地域を育む大樹となっていたただけるキッカケを作る事業と成りうることを願い、来年度も開催したいと考えております。

(大崎市社協地域福祉推進事業課長)

(4班) 岩出山地域福祉センター

- 玄関／点字ブロックが外から屋内まで続いており、自動ドアで車イスも入りやすい。
- 屋上／手すりやスロープが設置され、誰でも入りやすくなっている。囲いが透明になっており、車イスの方でも風景を眺めることが出来た。
- 研修室／研修室に入るために段差を解消するため、取り外し可能なスロープがあった。



(3班) 特別養護老人ホーム 敬風園

- 理容室／車イスの方もそのまま散髪できる環境になっている。
- 浴室／車イスや寝たきりの方も入浴できる機械がある。
- 自動販売機／車イスの方でもお金を入れやすく工夫され、購入ボタンも低い場所に設置されている。



(2班) 三本木道の駅「やまなみ」・大崎市三本木庁舎内

- 多目的トイレ(やまなみ)／ドアの開閉により照明が自動的に点灯する。高齢者・障害者・幼児にも対応できるトイレだった。
- 防災情報ステーション／目につく場所にAEDが設置されている。障害者用駐車場には屋根があり、車イスの方でも施設に入れる。
- 三本木庁舎内／4階市議会議場の傍聴席入口の階段には、車イス用昇降リフトが設置されている。

